

## いきいき直売の会 アスパラガス栽培特報

令和5年12月1日いきいき直売の会事務局

今年もあと1ヵ月ばかりとなりました。

アスパラガスが養分転流に入る条件は、平均気温が15℃以下、最低気温が10℃以下ですので、今年は11月上旬頃より転流が始まっていると予想されます。

決して慌てて刈り取るのではなく、12月上旬頃から下記を参考に茎葉を刈り取りましょう。

また、昨年もお伝えしましたように、「残茎を中心にバーナーで土壌表面を焼く」のみの処理方法は、圃場の茎枯病菌の生息数を減らしているとは言い難いことが分かりました。

バーナー処理は来春、雪解け後の実施で良く、次ページの通り、残茎の刈り取り・抜き取り⇒バーナー処理⇒堆肥マルチの流れで実施して頂くことが大切です。

茎まで黄色くなったら刈り取りOK！！

ハサミを当てても固かった茎が、黄化しきると指でつぶせるようになります。

### 1. 茎葉の刈り取り

茎葉の色が右の写真のように黄金色に変色したら、花切りバサミやカマ等で茎葉を根元から刈り取る。

残茎を多く残すと茎枯れ病の感染源になるので、できる限り地際で切り取る。

刈り取った茎葉は、病原菌の感染源になるので、圃場外に持ち出し、焼却処分する。



全体の8割がだいたいこれ位の黄金色に変色したら刈り取り適期

## 2. 残茎処理について

来春の雪解け後、以下の流れで残茎処理を実施する。

- ①残茎を草刈り機で除去するか引き抜く（写真2）。
  - ②草焼きバーナーで土壌表面（うね面、通路面）を燃焼殺菌する（写真3）。
  - ③元肥を施用し、たい肥マルチを行い、萌芽を待つ（写真4）。
- ※前年に茎枯病の被害が大きかった圃場は、たい肥をのせる前にベンレート水和剤をベット上に全面散布する。



写真1. 茎葉の刈り取り後の残茎



写真2. 草刈り機による残茎処理



写真3. 草焼きバーナーによる燃焼処理



写真4. 元肥の施用・堆肥マルチして萌芽を待つばかりの圃場